

山田みやこの活動報告

令和6年5月10・11日

全国自治体議員行財政自主研究会主催 滋賀県守山市の各施設視察と意見交換

《守山市のまちづくりについて》

守山市長 森中高史さん

総務省時代秋田県庁へ出向

2008年 守山市に部長級で出向

2013年 岡山県庁へ財政課長で出向

2018年 滋賀県庁へ総務部長として出向

2022年9月 総務省退職

2023年 守山市長就任

守山市の特徴

市制50周年 京都・大坂のベットタウンで人口増加。子ども・30代・40代多い

東西5キロ南北10キロの平坦な地形 隈研吾さん設計の市役所新庁舎

全国一の待機児童数 コロナ前から倍増する不登校

国内最大級のEV電池工場の誘致 村田製作所の研究開発拠点

新庁舎

隈研吾さん設計

ZEBReady化 ペーパーレス化 決裁電子化50% 職員席の自由化 庁内固定電話廃止

建物が変われば働き方も変える テレワークが当たり前 子育て部分休業の小3まで拡充

キャリアリターン制度の導入(介護育児等で退職した職員(5年以上在職)が退職後10年以内、59歳以下である場合、元職員の再採用制度を創設し即戦力として再活躍の場提供)

待機児童対策

保育士定着化 保育園整備

子育て環境充実

子ども家庭センター設置

不登校支援

教育支援センター設置 スクールソーシャルワーカー(SSW)配置

フリースクール利用児童生徒への補助金 スクールサポートスタッフによる教員負担軽減

市民が主役のまちづくり

自分達のまちは自分たちで守ろう、自分たちが創ろうという自治精神を持つ

無作為抽出の手法でこれまであまり市民参画に関わらなかった市民の声を聴く、ワークショップ形式3時間の話し合いで、満足感ある話し合いの為にファシリテーター配置。

※ 前市長3期、その後、森中市長が引き継ぎ

フレッシュ感覚で市政運営をしている。

市長室は秘書課の隣りで、副市長室は奥まった広い部屋(市長の意向で交換したとか)

森中市長の軽快な動きで、対面しやすさを出している。

新たな効率的な市政運営を全面的に出している



《守山市立図書館について》

館長より説明

市庁舎同様隈研吾さん設計 平成30年7月完成 11月開館

運営理念

本と人が出会い、人と人がつながる知の広場

学びと交流を支える2つの森「本の森」「つながる森」と1つの広場「木もれび広場」

本との出会いをより豊かにし、文化・芸術・市民活動が広がり、人と人がつながっていく事をめざしている

主な事業

アートキッズフェスティバルおはなし会

理系専門分野講座

ビブリオトーク 文学歴史講座

児童図書研究講座 図書館サポート隊の活動紹介と隊員募集

おはなしボランティア養成講座とつどい

学校・園・地域・団体への利用啓発と連携

出前おはなし会 地域子ども文庫等団体への貸し出し 小学校での図書貸し出し

市内園・家庭的保育室への絵本巡回 職業体験・図書館実習受け入れ(小中学校)

学校図書館支援

月1回の研修で、市立図書館司書と学校司書の情報共有

医療関係との連携

医学書の貸し出しが多いため、毎月2回県立総合病院のがん相談支援センターの専門スタッフによる個別無料相談を行っている。

広報活動

インスタグラム 広報「もりやま」発行)

※ 学校・地域との情報交換と

市民がのぞむ事業（医療相談等）

の開催など地域に密着した事業運営である



《発達支援システムについて》

- 1) 発達上の遅れや偏り、その疑いがある人達の自立と社会参加を推進するため、乳幼児期から継続した一貫性のある発達支援の取り組みを進めている。
平成17年4月に発達支援センターを開所し、乳幼児期から就労期までの一貫した継続的支援をするため「発達支援システム」を立ち上げた。
- 2) 事業内容は
 - ・乳幼児期から就労期までの発達相談
 - ・幼児期の言語相談指導
 - ・園を訪問し、先生からの相談に応じる
 - ・ケース検討において見立てや支援方法の助言
 - ・発達障がい二次障がいによる不登校やひきこもりの相談
 - ・義務教育終了後の支援引継ぎと高等学校訪問
 - ・個別ケース会議の開催や各種関係機関との連携
 - ・特別支援教育のための研修や発達障がい理解のための市民講座開催
 - ・医療受信者希望者には必要性・緊急性を判断し済生会守山病院につなげるシステムの運営

※ 一貫した継続的支援システムの運営に携わる職員の思いが伝わってきた。